

日本昆虫学会第 83 回大会プログラム

2023年9月16～18日

佐賀市：佐賀大学農学部（本庄キャンパス）

共催：佐賀大学農学部



9月16日（土）

9:00-9:30	受付（農学部1号館南棟1階）			
9:30-12:00	公開シンポジウム（A会場） [※B, C会場：サテライト会場]			
13:00-15:00	一般講演（口頭発表）			
	A会場	B会場	C会場	D会場
	進化・遺伝・種分化 系統・生物地理	生活史 生態・行動	分類	生理・生化学 ・生理活性物質 生活史
15:30-17:00	論文賞・若手奨励賞及びあきつ賞授与式、若手奨励賞受賞講演（A会場）			
17:30-19:30	小集会（ワークショップ）			
	A会場	B会場	C会場	D会場
	DNAから紐解く昆虫	昆虫の季節適応	昆虫担当学芸員	

9月17日（日）

9:00-12:00	一般講演（口頭発表）			
	A会場	B会場	C会場	D会場
	形態・組織・発生 系統・生物地理 進化・遺伝・種分化 生態・行動	生態・行動 多様性・保全・環境 飼育法・栄養	分類	英語口頭発表
12:30-14:30	ポスター発表（P1, P2会場） コアタイム 奇数12:30-13:30, 偶数13:30-14:30			
14:30-15:00	小中高生ポスター・昆虫じまん表彰式 P2会場			
15:15-17:15	公募シンポジウム（A会場） [※B, C会場：サテライト会場]			
17:30-19:30	小集会（ワークショップ）			
	A会場	B会場	C会場	D会場
	昆虫分類若手懇談会	ハチ目研究者の集い	地表性甲虫談話会	昆虫の家族をめぐる

9月18日（月）

9:00-12:00	一般講演（口頭発表）			
	A会場（305）	B会場（306）	C会場（309）	D会場（310）
	系統・生物地理 進化・遺伝・種分化	生態・行動 害虫管理・生物的防 除 多様性・保全・環境	分類	害虫管理・ 生物的防除
13:00	ポスター発表・英語口頭発表表彰式・代議員総会・理事会（A会場）			

大会会場へのアクセスと会場配置図

一般講演, 総会, 授賞式, シンポジウム

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地 佐賀大学農学部(本庄キャンパス)



* 佐賀空港から

- ・連絡バスでJR佐賀駅バスセンターへ。その後、以下の「JR佐賀駅から」を参照

* JR佐賀駅から

- ・佐賀駅バスセンターからバスで約15分

4番のりばから乗車、「佐賀大学前」下車(4, 11, 63番系統は次の「佐賀大学西」が最寄)

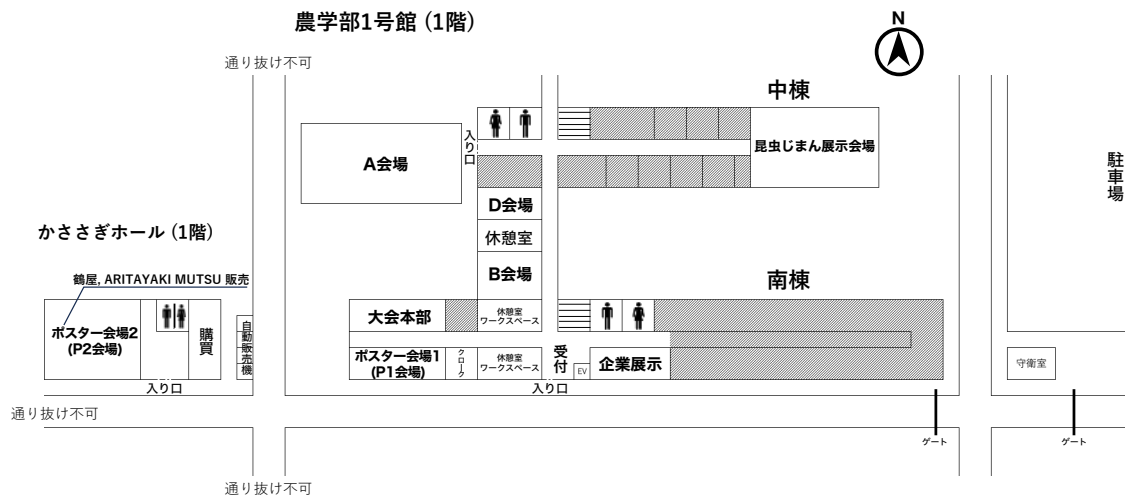
[4番] 佐賀女子短大・高校線, [11番] 佐賀大学・西与賀線,

[12番] 佐賀大学・東与賀線, [63番] 佐賀女子短大・高校線 が経由します。

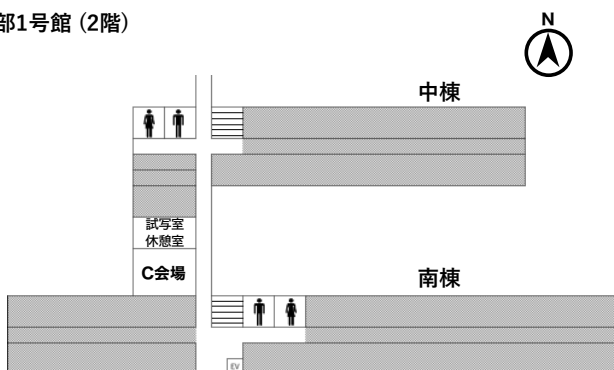
* 自家用車で

- ・自家用車でお越しの際は、キャンパス南側(国道208号線環状南線)から入構してください。料金(有料:200円/日)は後払い制です。

大会会場マップ（農学部1号館南棟 1階・2階，かささぎホール 1階）



農学部1号館 (2階)



大会事務局からのお知らせ

受付：大会期間中〔9月16日（土）、9月17日（日）、9月18日（月）〕はいずれも農学部1号館南棟1階入口です。事前申込みを済ませた方も、**受付で名札をお受け取りください。**

名札：会場では必ずお付けくださいますようお願いいたします。なお、大会1日目9月16日（土）午前中の公開シンポジウム、2日目9月17日（日）の小中高生ポスター発表および昆虫じまんへの参加は無料とします。

要旨集：今回の大会ではPDF版のみ作成し、**冊子体は配布いたしません。**必要な場合、お手数ですが各自でプリントアウトして持参いただきますようお願いいたします。PDF版は大会ウェブサイトで開催いたします。

代議員総会：大会3日目9月18日（月）13:00から14:30まで農学部大講義室（A会場）で行います（終了時間は変更される可能性があります）。会員の方は傍聴することができます。事前申込がお済みでない方は会場入口で受付を行い、入場してください。なお、代議員総会に先立って、ポスター発表および英語口頭発表賞の授与式を開催いたします。

公開シンポジウム：大会1日目9月16日（土）9:30から農学部大講義室（A会場）で行います。サテライト会場として、B会場およびC会場でも参加可能です（同時配信の中継になります）。

公募シンポジウム：大会2日目9月17日（日）15:15から農学部大講義室（A会場）で行います。サテライト会場として、B会場およびC会場でも参加可能です（同時配信の中継になります）。

懇親会：大会主催の懇親会は開催いたしません。

一般講演（口頭発表）：詳しくは「一般講演（口頭発表）におけるプレゼンテーション」をご覧ください。

一般講演（ポスター発表）：大会2日目9月17日（日）にポスター会場（P1, P2会場）で行います。12:30～13:30を奇数番号の発表、13:30～14:30を偶数番号の発表のコアタイムとしますので、これより前に掲示を終え、発表される方はこれらの時間帯はポスター前で対応してください。

なお、ポスターの掲示は9月17日（日）の9:00から可能です。自分のポスター番号が書いてあるパネルに掲示してください。また、同日17:00までにポスターの撤収をお願いいたします。

ポスター賞：優れたポスター発表にはポスター賞が授与されます。授与式は大会 3 日目の 13:00 から、代議員総会に先立って行います。

英語口頭発表：英語口頭発表は大会 2 日目 9 月 17 日（日）の午前中に D 会場にて開催いたします。優れた英語口頭発表には英語口頭発表賞が授与されます。授与式は大会 3 日目の 13:00 から、代議員総会に先立って行います。

小集会：大会 1 日目 9 月 16 日（土）と 2 日目 9 月 17 日（日）の 17:30 から小集会を行います。開催時間は最大で 2 時間です。運営は世話人の責任で終了時間を守ってください。すべての会場に液晶プロジェクターが装備されています。終了後、大会スタッフが操作パネルを終了させますので、世話人はすみやかに大会本部にその旨連絡してください。

小中高生ポスター発表：大会 2 日目 9 月 17 日（日）にポスター会場（P2 会場）で行います。13:00～14:00 を発表のコアタイムとしますので、これより前に掲示を終え、発表される方はこれらの時間帯はポスター前で対応してください。

発表者には参加賞の他、優れたポスター発表に対しては優秀賞が贈られます。大会 2 日目のコアタイム終了後、14:30 からポスター会場（H 会場 405）において授与式を行う予定です。表彰式は大会 2 日目 9 月 17 日（日）にポスター会場（P2 会場）で行います。1

なお、ポスターの掲示は 9 月 17 日（日）の 9:00 から可能です。自分のポスター番号が書いてあるパネルに掲示してください。また、同日 17:00 までにポスターの撤収をお願いいたします。

昆虫じまん：大会 2 日目 9 月 17 日（日）13:00 から農学部 1 号館中棟 1 階の生物学学実験室で行います。大会 1 日目 9:00 から標本を展示することができます（2 日目だけの展示でも結構です）。コアタイムは 9 月 17 日 13:00～14:00 の間です。この時間帯は標本の前で対応してください。展示をされた方には参加賞が授与されます。

撮影：大会における講演・ポスターの写真・動画の撮影は原則禁止です。発表者の許可を得た場合に限り認められます。

喫煙：佐賀大学のキャンパスは構内全面禁煙です。喫煙場所はありません。

休憩所：1 階と 2 階に 1 ヶ所ずつ設けてあります。さらに 1 階のワークスペースもご利用いただけます。

駐車場：本庄キャンパス内の駐車場をご利用可能です（後払い制、200 円/日）。

昼食：受付にて 11:00 より弁当（500 円）を販売いたします（1 日目と 2 日目は 100 食、3 日目は 30 食限定）。

大会期間中は学内の全食堂、売店が閉まっています。弁当が売り切れの場合には周辺のコンビニエンスストアや食堂などをご利用ください。受付で大学周辺のお食事マップを準備する予定です。必要な方はお受け取りください。

会期中の緊急連絡先：konchugakkai83@ml.cc.saga-u.ac.jp

各種会議の案内

佐賀大学本庄キャンパス 農学部1号館南棟

9月15日(金)(大会前日)

16:30~17:30

日本昆虫目録編集委員会 (B会場)

自然保護委員会 (D会場)

9月18日(月)

13:00~14:30 代議員総会 (A会場)

14:30~14:50 理事会 (A会場) 代議員総会が終わり次第、開催します。

学会賞授与式および受賞講演

A会場(農学部大講義室) 9月16日(土) 15:30~17:00

2023年度論文賞(表彰のみで、受賞講演はありません)

受賞論文: Shun Kobayashi, Chihaya Takaoka, Hiromu Tanimoto, Satoru Arimitsu, Masako Izawa (2022) Effect of spraying behavior and body size on predators of the big head stick insect *Megacrania tsudai* (Phasmatodea: Phasmatidae). Vol. 25(2) ENS 12508.

受賞論文: Masanori J. Toda, Kohei Takenaka, Takano, Toru Katoh, Ling Xiao, Jian-Jun Gao, Masako Yafuso (2022) Coexistence mechanisms of *Colocasiomyia* species (Diptera: Drosophilidae) sharing inflorescences of *Alocasia odora* (Araceae) as a host plant: Comparison between two- and three-species systems. Vol. 25(2) ENS 12506.

2023年度若手奨励賞(表彰および受賞講演)

土岐和多瑠 会員(名古屋大学 大学院生命農学研究科)「木質依存性昆虫の多様性と生活史進化に関する研究」

2023年度あきつ賞 受賞対象なし

S1：日本昆虫学会第83回大会企画・佐賀自然史研究会30周年記念事業

公開シンポジウム

水生昆虫の減少と保全-トンボ類を中心として-

9月16日(土) 9:30~12:00

主催：日本昆虫学会自然保護委員会・佐賀自然史研究会

オーガナイザー：林 成多(ホシザキグリーン財団・日本昆虫学会自然保護委員会)・

辻田有紀(佐賀大学農学部・佐賀自然史研究会)

企画趣旨

水辺環境の消失や劣化は、環境問題の重要な課題である。日本の水田や水路は、後背湿地の代替地として機能してきたが、営農方法の変化や設備の更新によって、水生生物の再生産に寄与しなくなっている事例も起きている。さらに豪雨や渇水、高温のような気候変動の影響も顕著になっている。

トンボ類やゲンゴロウ類などの昆虫は、生活史のほぼすべて、あるいは一部を水域で生活し、水生昆虫と呼ばれる。これらの昆虫も環境変化の影響を大きく受けている。トンボ類は日本人にとって身近な昆虫であり、かつ成虫は陸上生活であることから、普通種が減少すると気づかれやすい存在でもある。この20年ほど、赤トンボ(アカネ類)の大群が見られなくなったことが、環境変化の例として注目されている。

今回のシンポジウムでは、トンボ類を中心として、全国的な状況と、開催地である佐賀県での減少の状況やその保全についてパネラーから講演をしていただき、あわせて、緊急的な課題となっている水生甲虫・半翅類の減少についても講演をいただき、トンボ類とは異なる視点から水生昆虫の状況の理解を深めたい。今できること、これから何をすべきなのかについても討論したい。

講演

S101 ○東川航(森林総研九州支所)・吉村真由美(森林総研関西支所)・前藤薫(神戸大学)：里山の赤トンボはなぜ減少しているのか？—水田の環境変化から考える—

S102 中原正登(朝日テクノ株式会社・佐賀自然史研究会)：激減した佐賀県の赤トンボ ～それぞれの事情～

S103 上赤博文(佐賀自然史研究会)：佐賀市神野公園トンボ池の歴史と保全のための取り組みについて

S104 ○荒谷邦雄(九州大学)・苅部治紀(神奈川県博)・北野 忠(東海大学)・富永 篤(琉球大学)・富坂峰人(日本工営)：琉球列島における止水性昆虫類の危機的状況とその保全

S2：公募シンポジウム

昆虫の集団ゲノミクスへの招待

9月17日（日）15:15～17:15

オーガナイザー：中濱直之（兵庫県大・兵庫県博）・鈴木智也（京都大）

企画趣旨

多数の個体の全ゲノム情報やゲノム縮約情報に基づくアプローチは集団ゲノミクスと呼ばれ、ハイスループットシーケンサーの隆盛とともに一般的になってきた。集団ゲノミクスは莫大な数の遺伝子座のデータが得られることから、集団遺伝学をはじめ多くの分野でより重要なアプローチになると期待されている。しかし、解析費用の高さや解析環境の構築、バイオインフォマティクスの知識など、解析にはいくつもの壁があることから、普及が遅れているのが現状である。

本集会では集団ゲノミクスの数ある手法のうち、MIG-seq, GRAS-Di, Lc-WGS (low coverage whole genome sequence)の3つに焦点を当てた。各手法について詳しく紹介するとともに、それらの手法に基づく昆虫の集団ゲノミクスの研究例を紹介する。

講演

S201 中濱直之（兵庫県大・兵庫県博）MIG-seq法を用いた国内希少野生動植物種オガサワラシジミの保全ゲノミクス

S202 鈴木智也（京都大）GRAS-Di法を用いた昆虫におけるSNPs解析

S203 木下豪太（遺伝研）lcWGS法を用いた古標本を含むアサマシジミの集団遺伝解析

口頭発表 第1日目 9月16日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A101ケンアリアド ¹ <i>Diploaxenus kubotai</i> Kistner & Akatsuka, 1981の所属亜族と好織性への適応過程 ○野崎 真 ^{1,2} 、栗 維仁 ² 、橋爪 拓斗 ^{1,2} 、丸山 奈利 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大博 ²)	B101過寄生となったナガカメネジレバネ個体間の血縁 ○中瀬 悠太 ¹ 、菅藤 隼人 ² (京都芸術大学 ¹ ・北大院 ²)	C101日本産 <i>Aphilenus</i> 属(半翅目:アワフキムシ科)の分類学的再検討 ○奥寺 繁 ¹ 、林 正典 ² (北海道教育大学旭川校 ¹ ・九州大学総合研究博物館 ²)	D101カメムシの成長にともなう幼若ホルモンおよび脱皮ホルモンタイターの変動 ○森山 爽・深津 武馬 (産総研)
13:15	A102サスライアリと共生する腿のハネカクシ <i>Phyllocladus</i> 属(甲虫目:ハネカクシ科)の系統的位置 ○丸山 奈利 ¹ 、野崎 真 ² 、栗 維仁 ¹ 、井上 翔太 ² (九大博 ¹ ・九大院・生資源・昆虫 ² ・都立大・大教セ ²)	B102ツマグロカマキリモドキの寄主と生活史(新種目、カマキリモドキ科) 松本 支衛郎 (大阪市立自然史博物館)	C102日本産 <i>Alebroidea</i> 属群(カメムシ目:ヨコバイ科)の分類学的研究 ○上原 友太郎 ¹ 、大原 直彦 ² 、紙谷 聡志 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫 ²)	D102その場分析によるフタホシオオロギの体表脂質の構造・物性の性差に関する研究 ○金子 文俊 ¹ 、片桐 千帆 ² 、長嶋 剛 ³ 、佐崎 元 ³ (阪大 ¹ ・数理設計研 ² ・北大 ³)
13:30	A103九州島産マルヒメツバドROMシ(甲虫目:ヒメドROMシ科)の分子系統地理研究 ○吉田 匠 ¹ 、林 成多 ² 、竹中 將起 ³ 、東城 幸治 ³ (信州大院・総合理工 ¹ ・ホシザキグリーン財団 ² ・信州大・理・生物 ³)	B103アリカマキリ属(新種)の日本からの発見と生活史に関する報告 ○山崎 和久 ¹ 、村上 浩司 ² (農工大・農 ¹ ・日本総研学会 ²)	C103河川水際の閑雑環境に棲むムクゲカメムシ科の種多様性・分布・生態 山田 量典 (兵庫薬大/兵庫薬人博)	D103マダガス2化集団における雌性先熟・雄性先熟の光周期コントロール 田中 一裕 (宮城学院女子大学 一般教育部)
13:45	A104日本産ハナカキリ亜科と <i>Scheffersomyces</i> 属酵母の共生バクテリア ○土岐 和彦 ¹ 、岸上 真子 ¹ 、門司 早紀 ¹ 、鈴木 智之 ² (名古屋大 ¹ ・東大 ²)	B104森林総合研究所九州支所立山山奥林のスズメバチ女王におけるスズメバチマセンテウの寄生状況 ○佐山 勝彦 ¹ 、小坂 翠 ² (森林総研・九州・森林総研)	C104日本産ミズギワカメムシ科(カメムシ目)の分類学的研究 瀬戸山 知佳 (東京農大・昆虫)	D104エンドウヒゲナガアブラムシの孵化リズムは減衰の著しい概日時計によって駆動される 松田 直樹 (京都大学大学院農学研究科)
14:00	A105日本産ノメイガ類の分子系統解析 ○松井 悠樹 ^{1,2} 、Mally Richard ³ 、中 秀司 ⁴ (九大院・農 ¹ ・鳥取大院・遠慮 ² ・テコ生命科学大学プラバ ³ ・鳥取大・農 ⁴)	B105ニホンミツバチにおける分蜂の自然史 ○森井 清仁・坂本 佳子 (国立環境研究所・生物多様性領域)	C105沖縄島から採集されたケシカタビロアメンボ属 <i>Microvelia</i> (カメムシ目カタビロアメンボ科)の1不明種 相森 巧 (東京農大・昆虫)	D105マメハシヨウの産卵サイズによる休眠終了条件の比較 ○寺尾 美里・新谷 喜紀 (南九州大)
14:15	A106フジホソガの種内集団間における非対称な交配の要因に配偶行動の観察から迫る ○勝部 圭 ¹ 、大島 一正 ^{1,2,3} (京都府大・院 ¹ ・京都府大・新自然史科学創生センター ² ・京都府立植物園 ³)	B106モリシタクサアリの巣で観察された好織性ハチ類 ○梶原 苧月 ¹ 、松尾 和典 ² 、阿部 芳久 ³ 、山内 健生 ⁴ (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大院・比文 ² ・九大院・比文 ³ ・帯畜大・昆虫 ⁴)	C106日本産ツツジゲンバイ属(カメムシ目:ゲンバイムシ科)のクスノキ科に寄生する種の分類学的研究 相馬 純 (弘前大・白神センター)	D106ナシキョクユスリカの生活史に見られる季節性は内因性休眠と凍結による休眠終了によって生みだされる 吉田 美月・○後藤 慎介 (大阪市大・院理)
14:30	A107アラスカ州のガガンボダマシ(双翅目、ガガンボダマシ科) 中村 剛之 (弘前大学白神自然環境研究センター)	B107ヌカウロコアリによるウロコアリ、オオウロコアリへの一時的な社会寄生と混合コロニーにおける行動 ○水野 理央 ^{1,2} 、Lin Chung-Chi ³ 、貞廣 邦夫 ⁴ 、細川 涼太 ⁵ 、藤田 将吾 ⁶ 、松村 拓紀 ⁷ 、伊藤 文紀 ² (OIST ¹ ・香川大 ² ・国立彰化師範大学 ³)	C107千葉県南部から発見されたヒョウタンナガカメムシ科不明種の正体 伴 光智 ^{1,2} (帯広畜産大学・客員研究員 ¹ ・千葉中央大・共同研究員 ²)	
14:45	A108モザンビークに侵入したヒトスジシマカの起源推定およびノックダウン抵抗性遺伝子の検出 山下 紗里菜 ¹ 、瀬間 河音 ¹ 、橋 超 ² 、比嘉 由紀子 ² 、Quamba Nelson ³ 、皆川 昇 ⁴ 、○二見 恭子 ⁵ (長崎大学 ¹ ・国立感染症研究所 ² ・Ministério da Saúde Mozambique ³ ・長大農研 ⁴)	B108ウメアリ属群における餌利用様式と栄養生産 ○伊藤 文紀・中尾 福幸 (香川大学農学部)	C108日本産コテングサンガメ属(カメムシ目:サンガメ科)の分類学的研究 松田 卓巳 (東京農大・昆虫)	

口頭発表 第2日目 9月17日(日)

	A会場	B会場	C会場	D会場(英語口頭)
9:00	A201クワバメシジミにおける幼虫期の寄主植物による成虫の翅色の変化 上辻 愛織 ¹ ・久井 花恋 ² ・矢後 勝也 ¹ ・上田 昇平 ² ・〇平井 規夫 ² (大阪府大院・生命・大阪公大院・農・大阪府大・農・東大総研博)	B201陸棲甲虫類を対象とした遊泳行動の数理解析 左倉 和喜 ¹ ・仲田 資季 ² ・〇谷野 宏樹 ¹ ・千頭 康彦 ¹ (基生研・進化発生・核融合研・メタ階層 ²)	C201日本産Wroughtonia属(ハチ目:コムノバチ科;フチガシラコムノバチ亜科)の概要と旧Spasakia属について 〇廣瀬 勇輝 ¹ ・藤江 卓平 ² (東京農大・昆虫・大阪自然史博 ²)	D201 Diversity of velvet ants (Hymenoptera: Mutillidae) in East Asian forests 岡安 樹瑠也(北大昆虫体系)
9:15	A202深層学習による画像認識技術を用いたチョウの地理的変異に関する定量的考察 〇矢後 勝也 ¹ ・平川 寛 ² ・小椋山 寛二 ³ ・名和 哲夫 ⁴ ・川村 真也 ² ・大場 裕一 ² ・杉田 暁 ² ・福井 弘道 ² (東京大 ¹ ・中部大 ² ・慶應大 ³ ・名和昆虫博 ⁴)	B202カナブンの色彩変異と体サイズに関する個体群間比較 〇大下 日向子 ¹ ・大庭 伸也(長崎大学教育学部)	C202東アジアのCremastus属(ヒメバチ科, キハラアミバチ亜科) 〇大松 勇可 ¹ ・小西 和彦 ² (愛媛大学 ¹ ・愛媛大学ミュージアム ²)	D202 Search for egg parasitoid wasps of the rice stink bug and its parasitoid characteristic 〇住田 夢夢 ¹ ・竹松 葉子 ² (Tottori Univ. ¹ ・Yamaguchi Univ. ²)
9:30	A203機械学習(マハラノビスータグ法)を用いたカトムシ三齢幼虫形状からの雌雄分類 〇高井 干加 ^{1,2} ・山下 誠司 ¹ (岐阜大学 ¹ ・東北大学 ² ・名古屋大学 ²)	B203ヒトと鳥におけるスズメガ幼虫の見え方の違い 〇萩原 純子 ¹ ・小山 哲史(農工大/動物行動)	C203日本産ナゴコバチ亜科(ハチ目:ナゴコバチ科)の多様性 河野 太祐(九大・総合博)	D203 A staphylinid parasitoid of a staphylinid termitophile 〇Liang Wei-Ren・Maruyama Munetoshi(九州大学総合研究博物館)
9:45	A204クワロヒラタガムシ属とクワロヒラタガムシ属の幼虫形態(鞘翅目・ガムシ科) 〇瀧島 悠介 ¹ ・Fikáček Martin ² ・Liu Haing-Ohe ³ (北九州市立自然史・歴史博物館 ¹ ・National Sun Yat-sen Univ ² ・National Museum, Pragu ³ ・Diversity Ecol. Consult. Ltd. ⁴)	B204阿蘇地域に生息するオオルリシジミ九州亜種の個体群に及ぼす巨大地震と火山活動の影響 〇村田 浩平 ¹ ・松浦 朝奈 ² (東海大/農・信州大/農 ²)	C204サンバエ(ハチ目:イハエ科)の蛹から羽化したTrichopria属(ハチ目:ハエヤドリクワバチ科)の分類学的研究 〇河合 諒人 ¹ ・三田 敏治 ² ・松尾 和典 ² (九大・農 ¹ ・九大院・農・昆虫 ² ・九大院比文 ²)	D204 Species diversity of Aradidae (Hemiptera) in Japan 〇嶋本 晋介 ¹ ・長島 聖大 ² ・石川 忠 ¹ (東京農大・昆虫 ¹ ・伊丹市昆虫館 ²)
10:00	A205コガネムシ科幼虫における前胸硬皮板形態の高次分類への有用性 瀧島 勇飛(東京農大・昆虫)	B205土地利用の違いによるチョウ類群集の比較 〇仁平 岳登 ¹ ・中村 太士 ² ・鈴木 紀之 ¹ ・北沢 宗大 ³ (高知大学 ¹ ・北海道大学 ² ・国立環境研究所 ³)	C205イノコヅチカメノコハムシ(甲虫目:ハムシ科)に寄生するHolocotetrastichus属(膜翅目:ヒメコバチ科)の分類学的検討 〇久野 未希 ¹ ・藤木 謙 ² ・山本 淳也 ² ・椎崎 一宏 ² ・松尾 和典 ² (九大院地社 ¹ ・東洋大 ² ・九大院比文 ²)	D205 Diversity and distribution of paedogenetic gall midges associated with decayed woods in Japan 〇矢野 文士 ¹ ・古川 昌賢 ² ・Elsayed Aymer ³ ・尾崎 一夫 ⁴ ・澤島 拓夫 ⁴ ・徳田 誠 ² (佐賀大・院 ¹ ・佐賀大 ² ・近畿大・院 ³ ・近畿大 ⁴)
10:15	A206ノコギリクワガタで見られる運圓した形態変異 〇樋口 優月 ¹ ・立田 晴記(九州大/生態研)	B206大ヶヶ原における溪流性産動物群集の変化 吉村 真由美(森林総合研究所)	C206コバネヒメカゲロウ属(Pseotra/D) (アミメカゲロウ目, ヒメカゲロウ科)の分類学的研究 〇富永 豪太 ¹ ・中村 剛之 ² (岩手運大 ¹ ・弘前大 ² ・白神センター ²)	D206 Diversification of the genus <i>Asiopodabrus</i> (Coleoptera, Cantharidae) in the Ryukyu Archipelago, Japan 〇中村 涼 ¹ ・久保田 耕平(東大・森林動物)
10:30	A207タケノコハムシの前胸と上腿におけるトゲ形成過程 〇藤原 忠 ¹ ・後藤 寛貴(静岡大)	B207旭川市都市部の河川敷植生は「生態的回廊」として働いているのか 〇小島 龍平 ¹ ・奥寺 繁 ² (旭川実業高等学校 ¹ ・北海道教育大学旭川校 ²)	C207四国・九州産Pterostichus hisamatsu種群(コウチュウ目:オサムシ科)の分類学的再検討 椎葉 康太(愛媛大学 環境昆虫学研究室)	D207 Diversity of the termitophilous tribe Stereomerini (Coleoptera: Scarabaeidae: Aphodinae) 袴添 翔太郎(国立科博)
10:45	A208ナガレトビケラの交尾行動と交尾器形態 倉西 良一(神奈川工科大学)	B208日本広域にわたる森林性糞虫群集の特性 〇岸本 圭子 ¹ ・斎 拓雄 ² ・黒川 敏子 ³ ・兵藤 不二夫 ⁴ (龍谷大学 ¹ ・九州大学 ² ・森林総合研究所 ³ ・岡山大学 ⁴)	C208熊本県八代市五家荘から発見されたナガレトビケラ属(コウチュウ目:ハネカクシ科)の未記載種について 〇佐藤 勇哉 ^{1,2} ・丸山 宗利 ³ (九大院/生資源/昆虫 ¹ ・九大博 ²)	D208 Exploring Histera: The First Attempt to Review Histeridae Beetles from the Philippine Archipelago ODELA CRUZ IAN NIEL・大原 昌宏(北海道大)
11:00	A209樹皮下での2次元生活に適応した超扁平ボディがもたらす影響:シオリハサミムシ[新種]の特殊な交尾姿勢とその理由 〇上村 佳孝 ^{1,2} ・Lee Chow-Yang ³ (慶應義塾大学 ¹ ・Universiti Sains Malaysia ²)	B209小笠原諸島の外来陸生ヒモムシが昆虫に与える影響 〇岸本 年郎 ¹ ・佐々木 哲朗 ² ・石川 均 ³ (ふじのくに地球環境史ミュージアム ¹ ・小笠原自然文化研 ² ・静岡市 ³)	C209日本産ムネコバネカクシ亜族(甲虫目:ハネカクシ科)の分類学的再検討 〇横川 拓斗 ¹ ・丸山 宗利 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大博 ²)	D209 Structural differences of the male transtilla in the genus <i>Cameraria</i> (Lepidoptera: Graecillariidae) 〇澤田 昌彦 ¹ ・吉澤 和徳 ¹ ・大島 一正 ² (北海道大学 ¹ ・京都府立大学 ²)
11:15	A210オドリバエのオス生殖器で生じた効率的なポンプ構造 〇廣瀬 朋輝 ¹ ・吉澤 和徳(北海道大学農学院・昆虫体系学研究室)	B210色彩の多様性と分布の広さが関連するとき:モンキチョウ・フユシヤク・ベニモンマダラにおける種間比較 〇鈴木 紀之 ¹ ・高橋 佑磨 ² (高知大 ¹ ・千葉大 ²)	C210日本のアリヅカムシ最後の謎属Forinus(コウチュウ目, ハネカクシ科)の分類学的解明 野村 周平(国立科学博物館/動物研究部 ²)	D210 The Genetic Diversity and Population Structure of <i>Cybiaster rugosus</i> 〇Azharl Fadel ¹ ・森塚 絵津子 ¹ (九州大学大学院比較社会文化研究院 ¹ ・九州大学共創学部 ²)
11:30	A211トゲゴモグモで見られる不完全な交尾器破壊が再交尾抑制をもたらす要因 〇西嶋 武輝 ¹ ・鈴木 佑弥 ² ・立田 晴記 ¹ ・中田 兼介 ³ (九州大/生態研 ¹ ・徳島県立博物館 ² ・京都女子大 ³)	B211イソマツハナクダアザミウマ(新科)とヤマノイモハナクダアザミウマの食性と生態 〇中尾 史郎 ¹ ・川東 拓哉 ² ・山本 圭一郎 ³ ・兼子 伸吾 ⁴ ・塘 忠嗣 ⁵ ・とだ 聡 ⁶ ・喜久村 智子 ⁷ (京都府立大学大学院 ¹ ・福島大学 ² ・農研機構 ³ ・沖縄県 ⁴)	C211日本産ナミモンコケシキイ複合種群(甲虫目:ケシキイ科)の分類学的再検討 〇伊藤 直哉 ^{1,2} ・小川 浩太 ³ ・梶見 淳子 ² ・館 卓司 ⁴ ・荒谷 邦雄 ⁵ (九大院・地社 ¹ ・九大院・比文 ² ・学援DCZ ³)	D211 The phylogeography of <i>Dorus montivagus</i> approached by genome wide molecular analyses 〇上木 岳 ^{1,2} ・東城 幸治 ³ (東京農大大学院農学生命科学研究科 ¹ ・信州大学院総合理工学研究科 ² ・信州大学学術研究院理学系 ³)
11:45	A212顕微鏡写真とX線CTを使った岩手県久慈市の琥珀中のオドリバエ科の「卵」 〇城田 安幸 ¹ ・西川 幸宏 ² (医果同潤りんご機能研究所 ¹ ・京都工芸繊維大学 ²)	B212ブラインシュリンブ耐久卵を用いたケンカタビロアンゴウ属(Microvelia)の飼育 三田村 敏正(福島県農業総合センター浜地域域研究所)	C212日本産クテプトキウソウムシ属およびニセクテプトキウソウムシ属(コウチュウ目:ゾウムシ科)の分類 井上 修吾(九大院・生資源・昆虫)	D212 Relationships between traits for flight and habitat environment in two related <i>Synuchus</i> species 〇清水 隆史 ¹ ・久保田 耕平 ² ・池田 義士(東京大学大学院 農学生命科学研究科 森林科学専攻)

口頭発表 第3日目 9月18日(月)

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A301琵琶湖固有種ピロコシロカゲロウはオオシロカゲロウのシノニムなのか?ゲノムワイドな遺伝子多型解析を用いた検討〜関根 一希(立正大/地球環境科学)	B301オンプバッタの配偶成功に後肢の自切は影響しない 井出 純哉(久留米工大)	G301クスギキモンホソガ近縁種群の1新種と、同群の進化的歴史について ○佐藤 宏明・多部 葉月(奈良女子大学)	D301蓋質運動がタバココナジラミの繁殖・発育に与える影響 十河 雅樹 ¹ ・○柳澤 隆平 ² ・立田 晴記 ² (九州大/アグアフィールド科学研 ¹ ・九州大/生態科学研 ²)
9:15	A302河川生態系における種多様性創出機構—チラカゲロウ種内の2系統における同一水系での共存メカニズム— ○竹中 將起 ¹ ・谷野 宏樹 ² ・岡本 聖矢 ³ ・東城 幸治 ¹ (信州大 ¹ ・基生研 ² ・土木研 ³)	B302タガメの繁殖行動再訪:“卵巣し”は常に起こるのか? ○大庭 伸也 ¹ ・北野 杜真 ¹ ・原 優聖 ¹ ・一柳 英隆 ² (長崎大 ¹ ・熊本県立大 ²)	G302小笠原諸島のホソガ科(鱗翅目)の多様性: <i>Celoptilia</i> 属4不明種の正体 ○瑞寺 裕 ¹ ・大島 一正 ^{1,2,3} (京都府大・院生 命環境 ¹ ・京都府大・新自然科学学創成セン ター ² ・京都府立植物園 ³)	D3021-ラップ補強アブラムシからのリアルタイムPCRによるテンサイ黄葉ウイルスの検出 ○佐野 正和・大木 健広(農研機構・北農研)
9:30	A303未記載種を含むサツマツチゴキブリ種群の分布解明 林 幸希(東京農業大学昆虫学研究室)	B303ヒメツノカメムシにおける寄主植物間の繁殖形質変異 ○正本 大岳 ¹ ・工藤 慎一 ² (九州大/生態科学研 ¹ ・鳴門教育大 ²)	G303木材に穿孔するイッテンシロナガヒロズコガ(ヒロズコガ科)の幼生期 児玉 洋 ¹ ・○広渡 俊哉 ² (和歌山県 ¹ ・九州大 ²)	D303天敵を利用した促成栽培ピーマンおよびナスに発生するカイガラムシ類と発生状況 ○上里 卓己 ¹ ・安次富 厚 ² ・奥儀 喜代成 ² ・秋田 愛子 ² (沖縄県病害虫防除技術センター ¹ ・沖縄県農業研究センター ²)
9:45	A304日本におけるヤマトシロアリ属 <i>Reticulitermes</i> の南方系統と北方系統の分布境界 ○竹松 崇子 ¹ ・森近 龍一 ¹ ・中野 由布妃 ² (山口大学大学院 ¹ ・鳥取大学大学院 ²)	B304果の子はだれの子?ヨツボシモンシデムシの子育てにおける幼虫の父性検証 ○鈴木 誠治 ¹ ・八尾 泉(北大院・農)	G304マメヒロズコガ <i>Dryadula trapezoides</i> および外縁の近似した未記載種群について(ヒロズコガ上科, Dryadulidae) ○朴 鎮亨 ¹ ・広渡 俊哉 ² ・屋宜 禎央 ² (九大院 生資源 昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫 ²)	D304差し迫る外来社会性昆虫の侵入とその防除システムの高度化 ○坂本 洋典 ¹ ・坂本 佳子 ¹ ・神宮 周作 ² ・中嶋 慎美 ³ ・五箇 公一 ⁴ (国立環境研究所 ¹ ・対馬市役所 ²)
10:00	A305単為生殖種ナナフシモドキにおけるオスの進化的運命 ○野崎 友成 ¹ ・千頭 康彦 ¹ ・谷野 宏樹 ¹ ・佐藤 隆太 ² ・末次 健司 ³ ・兼子 伸吾 ² (基礎生物学研究所・福島大 ¹ ・神戸大 ²)	B305ヤマトシリアゲが採用する代替交尾戦略の地域間比較とそこをわれば行動も変わる? ○石原 凌 ¹ ・東城 幸治 ¹ ・宮竹 貴久 ² (信州大 ¹ ・岡山大 ²)	G305日本産 <i>Eupoecilia</i> 属(チョウ目:ハマキガ科)の分類学的再検討 ○鈴木 信也 ¹ ・神保 宇嗣 ² ・屋宜 禎央 ² ・広渡 俊哉 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・国立科博・福本資料 ² ・九大院・農・昆虫 ³)	D305ミカンコバエの誘殺板に対する反応性と防除効果の個体群間比較 ○楠本 みさき ¹ ・本間 津 ^{1,2,3} ・原口 大 ¹ (沖縄県病害虫防除技術センター ¹ ・琉球産産株式会社 ² ・琉球大 ³)
10:15	A306日本産 <i>Procoiphilus</i> 属(ハマキオオワタムシ属)アブラムシの系統, 分類, 生活史—未記載種の報告 ○秋元 信一 ¹ ・村上 啓介 ¹ ・石黒 誠 ² (北大/昆虫体系学研 ¹ ・富良野市博物館 ²)	B306イモゾウムシで明らかとなった強制交尾の多大なコスト ○日産 千尋 ^{1,2,3} ・本間 津 ^{1,2,3} ・池川 雄亮 ^{1,2,3} ・鹿野 了州 ⁴ (沖縄県病害虫防除技術センター ¹ ・琉球産産(株) ² ・琉球大学農学部 ³ ・希広畜産大学 ⁴)	G306九州・沖縄産 <i>Agonopterix</i> 属(チョウ目:ヒラタマルハキバガ科)の分類学的研究 ○荒島 弾 ¹ ・屋宜 禎央 ² ・広渡 俊哉 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫 ²)	D306ミカンコバエ種群 <i>Bactrocera dorsalis</i> complexミトコンドリアDNA/ハプロタイプの脱離地域間比較 ○本間 津 ^{1,2,3} ・楠本 みさき ¹ ・原口 大 ¹ (沖縄県病害虫防除技術センター ¹ ・琉球産産株式会社 ² ・琉球大 ³)
10:30	A307北海道より確認された <i>Trionymus</i> 属(カメムシ目:カイガラムシ下目:コナカイガラムシ科)の2未記載種および1国内未記載種について 田中 宏志 ¹ (愛媛大農学部 ¹ ・九州大学総合博物館)	B307N混合モデルを用いた津堅島のイモゾウムシの個体数推定と根絶防除への応用 ○池川 雄亮 ^{1,2,3} ・日産 千尋 ^{1,2,3} ・本間 津 ^{1,2,3} (琉球産産 ¹ ・沖縄県病害虫防除技術センター ² ・琉球大 ³)	G307日本産 <i>Pedioxestis</i> 属(鱗翅目:マルハキバガ科)に関する研究 外村 俊輔(徳島県立博物館)	D307原木シタケ害虫キノコバエ類の寄生蜂群集 ○末吉 昌宏 ¹ ・阿部 純大 ² ・渡辺 恭平 ² (森林総合研究所 ¹ ・九大院・生資源・昆虫 ² ・神奈川県立生命の星・地球博物館 ²)
10:45	A308チャイロケシカタピロアメンボの分子系統地理学と分類学的再検討 ○松島 良介 ¹ ・鈴木 智也 ² ・平石 直樹 ³ ・森井 隆文 ⁴ ・大庭 伸也 ⁵ (株式会社ニデック ¹ ・京都大 ² ・長崎大 ³ ・愛知県土地改良事業団体連合会 ⁴)	B308カバダガ幼虫の寄生者 金井 賢一(鹿児島県立園芸高等学校)	G3081不明種を含む日本産シマカラスヨトウ種群(チョウ目:ヤガ科)の終齢幼虫における識別 ○荒井 周・綿引 大祐(東京農大・昆虫)	
11:00	A309東南アジア固有のフクラミリアゲアリ種群の分子系統・歴史生物地理・形質進化 細石 真吾(九大/熱研センター)	B309アワダチソウゲンバエの卵の日齢が卵寄生蜂 <i>Anagrus virginiae</i> による寄生に与える影響 ○藤本 竜平・塚田 森生・保原 佳明(三重大学)	G309東アジアのヒロズミノガ属 <i>Corastochia</i> について(鱗翅目, ミノガ科) ○三枝 量平 ¹ ・杉本 美華 ² (三枝昆虫自然史研究所 ¹ ・アヤマハビル館 ²)	
11:15		B310シロコブゾウムシの成虫に寄生するコマユバチの特殊な産卵行動 ○藤江 卓平 ¹ ・田村 和暉 ² ・藤満 司夢 ³ (大阪市立自然史博物館 ¹ ・茗溪学園高等学校 ² ・筑波大学・生命環境 ³)	G310青森県産ホソキノコバエ科(ハエ目:キノコバエ上科)の分類学的研究 ○江口 一馬・中村 剛之(弘前大・白神センター)	
11:30		B311Facebook上の市民科学グループにより明らかとなったホシガタハラボコマユバチの分布と生態 ○清水 杜 ^{1,2,3} ・Chen Huan-Pu ⁴ ・Lin Kai-Ti ⁴ ・Chen Ren-Jye ⁵ ・藤江 卓平 ⁶ ・Hung Su-Chuan ⁷ ・Lo Mei-Ling ^{8,10} ・Tsai Ke-Hsiung ⁹ ・前藤 薫 ² (農研機構 ¹ ・日本学術振興会特別研究員 ² ・神戸大学大学院 ³ ・国立台湾大学 ⁴ ・高雄ナチュラリスト協会 ⁵ ・大阪自然史博物館 ⁶ ・Zhongzheng Community College ⁷ ・台湾チヨウ目保全協会 ⁸ ・The Society of Wildemes ⁹ ・Wild Bird Society of Taoyuan ¹⁰)	G311衛生上重要な日本産クロバエ類のDNAバーコーディングデータ 楠 卓司(九州大学・比文・生物体系)	
11:45		B312絶滅危惧種・クロシジミの寄生蜂、クロシジミアカヒメバチの70年ぶりの再発見 ○菊地 波瑠 ¹ ・久末 進 ² (豊橋市自然史博物館 ¹ ・自然環境研究センター ²)	G312First report of <i>Enigmadiplosis</i> (Diptera: Cecidomyiidae) in Japan and its infestation on <i>Rhododendron</i> ○Elsayed Ayman ¹ ・Kobayashi Yasukô ² ・Gagné Raymond J. ³ ・Tokuda Makoto ⁴ (Saga University, Japan ¹ ・Mie Pref.Agr.Res.Inst. Japan ² ・Smithsonian Institution, USA ³)	

学生正会員・若手正会員ポスター発表 第2日目 9月17日(日)

	P1会場 (S101)	P2会場 (かさぎ会館F1)
	PP01日本産ホラアナゴキブリの分類学的再検討 (ゴキブリ目:ホラアナゴキブリ科) 岩田 基晃 (鹿児島大学)	PP17タマバチ上科に属する寄生蜂とゴール形成蜂の卵成熟様式の違い ○WU YA JIAO ¹ ・阿部 芳久 ² (九州大学/大学院/地球社会統合科学府 ¹ ・九州大学/大学院/比較社会文化研究院 ²)
	PP02エノキの葉に虫えいを形成する <i>Paracoccus</i> 属タマバチの旧北区初記録と生態 ○宗 祥史 ¹ ・Elsayed K. Ayman ² ・徳田 誠 ^{2,1} (鹿児島大・連合農学 ¹ ・佐賀大・農 ²)	PP18ホウジャク亜科のホバリング飛行における尾毛・前脚・口吻の働き ○岡島 紗良・竹内 浩昭 (静岡大)
	PP03ミツマタツノゼミのヘルメット形成過程の組織観察 ○杉浦 幹太 ¹ ・寺野 天華 ² ・足立 晴彦 ³ ・後藤 寛貴 ¹ (静岡大 ¹ ・東京大 ² ・慶応大 ³)	PP19クシヒゲハイロヒメシヤクの生態および塩生植物シチメンソウ立ち枯れとの関連 ○大塚 陽香・奥園 元晴・矢野 文士・日南 瑠・徳田 誠 (佐賀大学・農)
	PP04カニコ幼虫の組織学的研究 ○岩田 航輝 ¹ ・佐藤 瑞穂 ² ・岡崎 充宏 ^{2,1} ・吉田 祥子 ² (東京工科大学大学院 医療技術科学研究科 臨床検査学専攻 ¹ ・東京工科大学 医療保健学部 臨床検査学科 ²)	PP20性的対立による有性生殖の維持: ネギアザミウマを用いた検証 ○工藤 達実 ¹ ・長谷川 英祐 ² ・土畑 重人 ¹ (東京大学 ¹ ・北海道大学 ²)
	PP05汽水域にも進出したナミアメンボ (カメムシ目、アメンボ科)の分子系統地理 ○朝崎 遼・村上 翔大・土畑 重人 (東大院・総合文化)	PP21エサとなる共生酵母の栽培基質がニホンホビロコメツキモドキの産卵嗜好性と幼虫の発育に及ぼす影響 ○岡島 大洋・土岐 和多理 (名古屋大)
奇数番号 12:30 ~ 13:30、 偶数番号 13:30 ~ 14:30 (コアタイム)	PP08シリソコロバチ科(ハチ目:クロバチ上科)の系統学的研究 ○阿部 純大 ¹ ・三田 敏治 ² (九大院・生資源・昆虫 ¹ ・九大院・農・昆虫 ²)	PP22アマミナナフシにおける卵休眠の証拠 ○中野 晏志 ¹ ・社師 弘太 ² ・福島 悠起 ² ・中村 圭司 ^{1,2} (岡山理大院 ¹ ・岡山理大 ²)
	PP07MIG-seq法に基づいたカブトムシの集団遺伝構造及び遺伝的漂乱リスクの検証 ○濱野 友 ¹ ・陶山 佳久 ² ・松尾 歩 ² ・伴 光智 ⁴ ・渡部 晃平 ³ ・山崎 健史 ^{1,3} ・山田 直崇 ^{1,3} ・中濱 直之 ^{1,3} (兵庫県立大学 ¹ ・東北大学 ² ・石川県ふれあい昆虫館 ³ ・千葉県立中央博物館 ⁴ ・兵庫県立人と自然の博物館 ³)	PP23日本産クビナガキバチ科昆虫2種の利用樹種と卵・共生菌・粘液の保有状態 ○高木 隆・梶村 恒 (名古屋大・院・生命農)
	PP08共生アリによる選択的捕食はクスギクテナガオオアブラムシの口吻の長大化に寄与するか? ○松崎 匠 ¹ ・中村 駿介 ¹ ・中瀬 悠太 ² ・市野 隆雄 ³ (信大院 ¹ ・京芸大 ²)	PP24再導入されたミヤマシジミ局所個体群の4世代の動態 ○秋山 礼 ¹ ・出戸 秀典 ² ・宮下 直 ² (東京大学農学生命科学研究科森林園生生態研究室 ¹ ・東京大学農学生命科学研究科生物多様性科学研究室 ²)
	PP09ベニツチカメムシにおける飛翔期の発達時期および飛翔分散 ○栗田 桃萌・奥園 元晴・徳田 誠 (佐賀大)	PP25マレーズトラップによるタマバチ類の多様性および捕獲消長: 佐賀県内の森林と開放地の比較 ○日南 瑠・古川 晶啓・Elsayed K. Ayman・徳田 誠 (佐賀大学)
	PP10ハチジョウノギリクワガタにおける飛翔能力消失の解明 ○小森谷 泰 ¹ ・横井 智之 ¹ ・佐賀 達矢 ² (筑波大・院・保全生態 ¹ ・神戸大・院・人間発達 ²)	PP26佐賀県におけるサカキブチヒメヨコバイの発生生態および温度が発育に及ぼす影響 ○森 理乃 ¹ ・森口 辰也 ² ・徳田 誠 ¹ (佐賀大 ¹ ・佐賀林試 ²)
	PP11夜間に大量に飛翔している地表徘徊性甲虫: サータイトラップによる地点間の捕獲消長の比較と分散生態 ○下川 悠太 ¹ ・宗 祥史 ² ・林 大祐 ¹ ・大塚 彰 ³ ・徳田 誠 ¹ (佐賀大学・農学部 ¹ ・鹿児島大院・連合農学 ² ・農研機構 ³)	PP27吸汁性昆虫に対する植物の抵抗性を甘露のグルコース量で評価する ○横関 辰彦 ^{2,1} ・松本 由記子 ¹ ・島山 吉則 ² ・田村 泰盛 ¹ (農研機構/生物研 ¹ ・日大生物資源/動物学科 ²)
	PP12生殖様式とゲノムサイズに変異をもつ日本産ヒョウタンゾウムシ属の進化史 ○村上 翔大 ¹ ・Hsu Po-Wei ¹ ・木下 豪太 ² ・奥崎 輝 ³ ・土畑 重人 ¹ (東京大学大学院総合文化研究科 ¹ ・遺伝研 ² ・大阪公立大学国際基幹教育機構 ³)	PP28タイワンカブトムシの宿主ステージと性差がnudivirusの伝播率に及ぼす影響 ○山内 麻裕歩 ¹ ・Kitalong Chritopher ² ・仲井 まどか ¹ (東京農工大学/応用遺伝生態学研究室 ¹ ・Palau Community College ²)
	PP13海岸環境に対する生態的特性におけるヒョウタンゾウムシ近縁種間の差 ○政池 一輝 ¹ ・大井田 寛 ² ・井上 真紀 ¹ (東京農工大学大学院 ¹ ・法政大学 ²)	PP29 <i>Oryctes rhinoceros</i> nudivirusに対するタイワンカブトムシの異なる地域個体群における感染感受性の比較 ○Sugimoto Koichi ¹ ・山内 麻友歩 ¹ ・Marshall Sean ² ・Moore Aubrey ³ ・仲井 まどか ⁴ (東京農工大学農学府 応用遺伝生態学研究室 ¹ ・Lincoln Research Centre ² ・University of Guam ³ ・東京農工大学農学府 応用遺伝生態学研究室 ⁴)
	PP14野外観察から解き明かす水田生息性ゲンゴロウ類4種の共存機構: 幼虫の季節消長、微生息場所利用、食性に着目して ○渡辺 梨也 ¹ ・大庭 伸也 ² ・佐川 志朗 ¹ (兵庫県立大学大学院 ¹ ・長崎大学 ²)	
	PP15コバネアシベセスジハネカクシの水での気泡保持とその生態的意義 ○奥園 元晴 ¹ ・栗田 桃萌 ² ・西首 嶺一 ² ・徳田 誠 ¹ (いであ(株) ¹ ・佐賀大 ²)	
	PP16なぜヤマヨツボシオオアリの未交尾女王は交尾時期を過ぎてても巣内に存在し続けるのか? ○千代田 和真・井上 就太・山崎 和久・佐藤 俊幸・小山 哲史 (東京農工大学)	

小集会（ワークショップ）

9月16日（土）17：30～19：30

WA1：DNAから紐解く昆虫の不思議な世界-植食性昆虫の進化-（A会場）

世話人：竹中将起（対応者），関根一希，谷野宏樹

WA101 徳田 誠（佐賀大）「昆虫における虫えい形成性の進化」

WA102 ○上木 岳^{1,2}・久保田 耕平¹・東城 幸治²（東京大院・農学生命科学・森林¹・信州院・総合医理工²）「クワガタムシと酵母の共生関係の進化」

WA103 青山 悠（京都府立大）「寄主植物種は天敵相を規定するのか？：マメ科植物を利用するホソガの寄生蜂相の比較」

WB1：第24回昆虫の季節適応談話会（B会場）

世話人：田中一裕（宮城学院女子大学），後藤慎介（大阪公立大学）

WB101 ○黒木 祥友¹・井村 英輔²・星野 涼¹・水野 陽介³・Nouzova Marcela⁴・松山 茂⁵・溝口 明⁶・近藤 周⁷・谷本 拓⁸・Noriega Fernando⁹・丹羽 隆介²（筑波大・院理工情報生命¹・筑波大・TARA セ²・筑波大・院生物学学位プログラム³・Acad Sci Czech Republic⁴・筑波大・生命環境⁵・愛知学院大・教養⁶・東京理科大・先進工学⁷・東北大・院生命科学⁸・Univ S Bohemia, Dept Parasitol⁹）
「キイロショウジョウバエの生殖休眠を制御するアラタ体投射神経の機能解析」

WB102 松本 紘輝（鳥大院・連合農学研究科）「年1化を維持する昆虫の分布域北上に伴う生活史形質の変化—モリチャバネゴキブリを例に—」

WB103 栗和田 隆（鹿児島大・教育）「マダラスズの休眠や交尾行動への都市環境の影響とそれに対する適応進化」

WC1：昆虫担当学芸員協議会（C会場）

世話人：松本吏樹郎

WC101 奥島 雄一（倉敷市立自然史博物館）「100年後に後悔しないための、とりあえずもろう努力」

WC102 土屋 慶丞（釧路市立博物館）「標本は未来へのおくりもの～百年後に残す博物館の「仕組み」づくり～」

WC103 藤江 隼平（大阪市立自然史博物館）「大阪市立自然史博物館の甲虫コレクションの現状と課題解決に向けた取り組み」

9月17日(日) 17:30~19:30

WA2：昆虫分類若手懇談会シンポジウム「分類学における分子情報の活用」
(A会場)

世話人：野崎 翼

WA201 長太 伸章(国立科学博物館人類研究部)「分子実験・系統解析における基礎的な手法」

WA202 柿添 翔太郎(国立科学博物館 標本資料センター)「分子系統解析を高次分類体系の改定に活用する-野外のサンプリングから国際的なデータベースの活用まで-」

WA203 澤田 直人(京都大学 大学院理学研究科 動物系統学学科)「一塩基多型データを活用した種分類：琵琶湖の淡水貝類を題材に」

WB2：ハチ目研究者の集い(B会場)

世話人：岡安樹璃也(北海道大学昆虫体系学教室)

WB201 岡安 樹璃也(北大昆虫体系)「アリバチ学ことはじめ」

WB202 菊地 波輝(豊橋市自然史博物館)「DNA バーコーディングから見えてきた日本産ヒメバチの種多様性」

WB203 小西 和彦(愛媛大)「私の寄生蜂遍歴」

WC2：地表性甲虫談話会(C会場)

世話人：八尋克郎(琵琶湖博・特別研究員)

WC201 徳田 誠(佐賀大・農)「縁(えにし)で繋がったゴミムシ研究ネットワーク」

WC202 宗 祥史(鹿児島大院・連合農学)「地表徘徊性甲虫の夜間飛行」

WC203 渋谷 園実(東大・農)「地表徘徊性甲虫の多様な生態」

WC204 八尋 克郎(琵琶湖博・特別研究員)「私のこれまでのオサムシ科甲虫の研究と最近関心を持っていること」

WD2：昆虫の家族をめぐる進化生態学(D会場)

世話人：鈴木誠治(北大院・農)・工藤慎一(鳴門教育大・院・学校教育)

WD201 工藤 慎一(鳴門教育大)「節足動物にみられる托卵：ミニレビュー」

WD202 〇丹伊田 拓磨¹・鈴木 誠治²・八尾 泉²・西村 知良³(北大院環境科学¹・北大院農²・日大生物資源³)「モンシデムシを例とした托卵を成功させる侵入者側の戦術」

WD203 長 泰行(千葉大学 園芸学研究院)「托卵するのはカッコウでしょうか, いいえ, ダニでも -ミヤコカブリダニは卵が食べられそうな時だけ托卵する-」

小中高生ポスター発表（P2 会場）

9月17日（日）コアタイム 13:00～14:00

- PY01 内山 旬人（小美玉市立小川南中学校）「キバネツノトンボの研究 — 成虫の生態と生活史 —」
- PY02 仲谷 健真（志摩市立志摩中学校）「三重県志摩市におけるセミの分布とその知見について」
- PY03 猪口 嘉南斗（久留米市立屏水中学校）「セミの形態と個体差について調べたこと」
- PY04 三谷 遙華（ノートルダム清心学園 清心女子高等学校）「セミの抜け殻調査 ～セミの羽化に与える環境要因について考える～」
- PY05 市村 檜文（岡山県立岡山朝日高校）「飛ぶ昆虫の至適外表体温は 30℃前後か？ ～4年間の調査・研究・解剖から考える蝶，蛾，蟬の生態～」
- PY06 熊谷 緋沙子（千代田区立九段小学校）「ネジバナの研究 2019～2022 ～新しい送粉者と送粉方法の発見～」
- PY07 長井 丈（神戸市立井吹東小学校）「アゲハの幼虫の時の記憶は成虫になっても残るのか」
- PY08 山元 萌衣（弘学館中学校）「佐賀県内での 10 年ぶりのオオチャバネセセリの記録と生態に関する考察」
- PY09 〇田村 和暉 1・藏満 司夢 2（茗溪学園高等学校 1・筑波大学生命環境系 2）「昆虫の新能力を発見か!? シロコブゾウムシにおける水没からの復活」
- PY10 森岡 玲圭（ノートルダム清心学園清心中学校）「ヒメ様のお化粧のなぞーヒメギスのグルーミングー」
- PY11 森岡 正義（学校法人加計学園岡山理科大学附属中学校）「ねえ，君は本当にピンク色が好き？ーピンクバッター研究ー」
- PY12 森岡 正道（吉備中央町立吉備高原小学校）「クワガタを守りたい」
- PY13 立石 桃（徳島県立城南高等学校）「昆虫の跗節による分類と、そこに生える毛の形態的意義」

昆虫じまん（農学部 1 号館中棟 1 階 生物学学生実験室）

9月17日（日）コアタイム 13:00～14:00

- 展示 1 高橋 貴太（学校法人三木学園 白陵高等学校）
- 展示 2 児島 光朔（広島県立神辺旭高等学校）
- 展示 3 木原 博翔（学校法人崇徳学園 崇徳高等学校）
- 展示 4 市村 檜文（岡山県立岡山朝日高校）